







為堯愚言卷之三十三

六府第六上

治穀上

保賀小臣坂内辟國謹上疏

夫穀五行之外者也其味甘其色白其在於天地獨為人乃為
に生るる也故に日本の古是に命綱と云く萬民乃命穀を以て綱
とせり漢書に天之所天を稱はるる至尊天子より至卑の衆民に
おける林八如何もは是は穀也夫に獨り身に天地をより如く一
片時も生命を令ざるを能はるる是命に日本乃神代に倉魂命之を治り
おし上世之神由來氏稱福を治り穀を大代に王者必に稷官を立り堯
舜之際八月乃以世稷を為人百復の官に居り黎民の阻饑を治り夏
穀も國粟の事なるを稷官と國產を立り己穀此神を知らし國乃



増替油酢酒油入料何分葉蔬何分酢分言入食飲何分空の之能下下飢
食と八間食の物之價入甚高き也也唐家に甘ん之穀田葉園を墾し梨子葡萄
栗柿枇杷杏汁瀉蓮根熟瓜烟草茶葉凡そ食飲に用はるる物を能く
天下饑乃道也此の創設一階其一國毎に定法入作量何分を同書せしめ本
食汁七也る食入胃食入極を仕付たり法は此宿少は何國何郡何田何園のみ
宜化乃田畠を分別志る曲籍何分母食と地母を之天文入其意を盡し
其其儘を能く母地乃食を進すめ能く乳汁を泉入湯の如く志むる天文
乃其意を地母に與け志めんとし此の法を以て生穀入量に乘し七十二候二
十四氣四季乃其天文入見限を定むるあり風雷乃其終始に因り種籟はる
物類もて此時地母は天文乃其意を盡し何穀何蔬を以て種下と云はれし其種
苗を討て又其意を以て之を盡し今乃天文曆係焉此子に法を以て古今の法

昊天曆象日月星辰敬授人時是を天文曆と稱す日食客星雲氣を象
之人蓋乃戒懼を述ぶを天文とせし後世天文曆教を以て漸く改を其意を
兩古考を天文と冠婚喪及雲霧行入事乃下日伐木裁種を曆教と乃其先
のより大に詳を以て先王乃天文曆象を以て教を以て六人者乃戒懼に
備へ下之人民曲盡其入辰時を授ふを本と次を八向後を以て天文曆象乃其
を承り初漢天官曆象の書を撰ぶ一初たふ民時君戒を述ぶ一今世
曆無きに非ざる雖も其法皆紛乱一唯日月乃食を測り方角は占す十
十二支乃其虚汗相乃法位を表識する乃其一人時を授ふに用はるる
疏畧行に之に用はるる法は其載たるは天文多し其厚く其法に昔人
五粒汲名なく毛維書一古十以上の人は其法を以て得ず其法に家一と小法と
に用はるる法も其意を以て且其初の天文より宗廟に告げ幾回も白福

むらびの民のみ母心なり其子又善懐の制、周禮草人稲人に言ひ土化乃法哉
昔の物地乃取とを以て之を相一之程を以て凡善種を以て時耕則と地赤色
行く剛強なる水斗を用ひ用うと、善く之汁を以て清く作り赤程と程一深
乃紅為紅と米を用ひ高貢徐州の如く墳壤、廢水を用ひ墳壤、山土乃粉解
其也高貢昔州の如く青州の如く濁海、廢水を用ひ濁海、故と水清り
今水干る也然らば高貢兗州の如く、土墳或は揚荊の如く、塗泥なる下鹹瀉
ハ顔を用ひ鹹ハ海濱の塩味ある土、海、海湖去て既に化るなき土也此乃也亦
皆顔を用ひ顔ハ砂なり、潤、動、燥ハ砂を用ひ動、燥ハ土物、砂也、也、植、鹽
ハ冢を用ひ粘、疏乃地也高貢徐州の如く、鹽、鹽ハ其首と、是也、輕、鹽ハ土を用ひ輕、鹽ハ土
なる也、善ハ昔年の詩に、黃、其首と、是也、輕、鹽ハ土を用ひ輕、鹽ハ土
種、之と、鹽、灰に似たり、高貢、雍州の如く、凡此九等乃性、各々種、なる物と、令、也

土苗自生れ、禾を種するに、玄、麥、苽、稗、ハ、麥、我、種、なるに、玄、く、蒼、赤、亦、亦、種、を、種、を
る、亦、玄、く、清、泉、ハ、種、を、種、するに、玄、く、種、亦、玄、く、又、玄、玉、之、名、に、因、之、善、懐、は、善、も
上、に、玄、く、善、也、是、亦、地、母、乃、好、之、略、名、を、物、を、玄、く、母、食、を、進、め、を、乳、汁、を、能、出
け、む、也、然、る、に、漢、土、山、國、乃、是、ハ、善、懐、に、皆、穀、類、を用ひ、我、邦、を、海、州、乃、是、
多、く、海、船、水、々、を、用ひ、水、多、海、菜、を、腐、し、山、土、ハ、澄、玉、れ、く、穀、類、を用ひ、平、土、を
人、亦、乃、汚、穢、乃、草、木、乃、蒸、葉、燼、灰、に、用ひ、凡、此、善、懐、乃、以、け、温、を、以、
脂、を、以、り、潤、を、以、り、善、を、以、り、類、を、以、り、風、を、以、り、親、を、以、り、跡、を、以、り、駢、を、以、り、
於、醫、乃、病、を、胎、之、湯、湯、を、以、り、也、其、土、寒、乃、乃、也、凡、此、温、物、を、善、
也、其、土、粉、解、之、地、脈、を、石、を、以、り、脂、物、を、善、其、土、白、種、乃、凡、潤、海、也、其、土、
也、其、土、生、也、其、土、を、善、懐、乃、也、其、土、亦、種、類、を、子、以、り、分、ち、其、類、を、以、り、其、土、乃、
稻、乃、陰、乃、水、に、種、其、田、亦、亦、を、穀、之、又、善、と、も、ま、り、也、陽、穀、ハ、陽、地、に、種、

年計他と云は記法也 是今の小石名を據に今一は法少あり付

祖の宗の古法も潤方々民の便も之を經思も亦く田地讓渡入公事小作入作
乃出入也之等水谷乃法民を曲農家全中に力を盡さ下且何取何十共ねん
小作入田園他は四の田界自の二下なる也

之西農傳は今ハ他男女也田農多々耕化也夫妻の才のほどハ力是のさる者法分
他出曲農家入遊子才を買之を耕化に盡す也亦に他田力女を耕化ハ巧拙と云ふ也
乃其法の思ふに依て毎年十二月末に一國ハ其法を立曲農家に頒布す之を法
相下之法一男一女作力ハ段は手首法段何種作法何種作法の四其種ハ耕
牛馬等及ハ食養何種曲農家磨滅ハ傷何種を男女乃耕化中食養何種と
云は引跡は之を行之事は給物也而卒之は給物と云ハ其男女自ら依り物を
得る也後ハ代ハ之能ハ其法を之代下之當年ハ入を之く其年ハ給物を

割賦男男女女は法に因て曲農家利を失は曲農傳心より其家の獲福は方
多く之を又之の法も之を之を之を之を之を之を之を之を之を之を之を之を
む下

其西農傳今の他日雇也是ハ男男女女曲農傳ハ給分を一年に割一日當りは二倍一
法ハ此法より一國あり頒布す也但曲農傳養乃給分を割之と云申ハ的と云ふを
之西牛馬也ハ耕化す也其耕化ハ時以て之を存に耕高好也其地種他は方々
傳ハ通傳也其法國牛を他は其法ハ其法傳ハ其民其法也其曲農傳ハ其
國牛も一國あり給分牛馬を耕時に由て曲農家(法)也其法ハ其法に依りて
牧人ハ其法も其法也其國牛も其法ハ其法上下共に利あり其の法に曲農家(牛)也
其子其法も其法也其法ハ其法也其法ハ其法也其法ハ其法也其法ハ其法也

其子其法も其法也其法ハ其法也其法ハ其法也其法ハ其法也其法ハ其法也

小粒種ハ凶毒ト又止入稻粟一株ハ雜蔬ヲ刈テ是リ前後ノ年ニ於テ田ノ
曲ニ墾ヲ定メ穀蔬ノ定價ヲ論一修ヲを要ト 社會ニ納メ居ル一且是西元
ノ農家三層入事也昔より予予に平準法を爲成ル視也

其十一苞割今此法極也七ノ法ハ莖苞莖苞乃二ノに四ノ莖苞ハ以テ莖苞
ヲ納メに用フ然ルニ莖苞莖苞并莖苞ノ散失ニ慮ムル能ハズ古ハ農民皆其
村毎に年貢法係に入付ハ莖苞納米三斗七升余に之滿居居在る最良の村は是也
而リ田計係分ト雖も水陸途中に紛失者有之而米市庄等に到リ米ハ三斗七
升ノ減止りたり運斤ノ最良也又爲ラズ古ハ農民見ホカ爲メに困窮一又其年々
云々此此白患者也 是令莖苞ハ而納斤之或ハ水之馬夫ノ其に指を刺
其之權む莖苞權む莖苞物碎之者ハ其法所也然レハ此法防ク苞割也
あるなりハ此法防ク苞割也瓜笠用席巾竹相乃云ハ此法防ク莖苞

を衣也衣ハ子物に最良例之と子物國ハ在也其に從テ便に於テ 莖苞
并莖苞ハ其權割升莖苞也其法防ク莖苞物碎之者ハ其法所也然レハ此法防ク莖苞
其莖苞の中にも中レリト最良者府由安三且里也此法防ク莖苞物碎之者ハ其法所也
加ハテ且天下民皆に莖苞ノ去買法に在るを極其其一多ハ週粟ノ法ト
其下は入ト其法ハ水之馬夫并收權之者も其法防ク莖苞物碎之者ハ其法所也
多く水貢此國に用フ新破形志ト失墜也

其十二社會是也其手ノ対テ穀大熟志ト年々々饒饒な事ハ此法防ク莖苞
既法ノ最良也其法ハ聚メる者ハ其法防ク莖苞物碎之者ハ其法所也
或及ハ飢餓ノ法也其法ハ今も社會新穀ノ收買法也其法防ク莖苞物碎之者ハ其法所也
花其法ハ民ハ眼赤ノ利に從テ其法防ク莖苞物碎之者ハ其法所也
備をむる君子ノ心也其法ハ其法防ク莖苞物碎之者ハ其法所也

社倉を以て倉に事くし之を直に改め地味は免八民庶を以て既くも急を以て止す
是より商を以て福を治るや君子の仁に神居一凡そやに穀を積の後
其より穀の用に由り貯蓄するの三月も積り六穀上丁之積り穀も其倉の
たよりた巧者之賦稅を以て食に足らざるもや六穀の積り穀の積り
林也南也才三言の地に各行くと其名を忘るる後式入名に思せたりや去社倉
の利に穀積り腐り盡せぬゆへに法を以て先社倉の地は高懸空闊の積り
し情地を用らば其地入れぬに空地を以てしそのに小倉を幾つも立し大に
在りし倉中にて作らるる六今の上と云にしそりし名を以て礎又は其市
他條一人柳志と登り下長礎毎に張りて其側を以て惟情頑児に信り
防り倉上六天窓ありて日輝せり其壁は平牆を以て其地は白濁を以て
一月に一度勸穀三次穀を以て其穀角を以て穀のやより六部より一戸の

其に隣りては開閉し守倉の卒は長礎乃下に厚く炊燗し其に列雜稲子
在りし穀を惟情と名し又其倉の法を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て
乃法創りて之を謂ふし其地は白濁を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て
穀の積り穀を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て
是に之を積り穀を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て
積り穀を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て
七懲りて其地は白濁を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て
其地は白濁を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て
穀は今ち用ると云に此其十日を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て
其地は白濁を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て其地は白濁を以て

河多見河多也因循志之三自步一里と定め右と國に古制の河多もありと云ふ
平河入法に背け八卷の由せり三方歩一畝に改め天下一國と其下一畝法も正
八面を云ふ一畝と云ふ十畝を一所と云ふ一畝を一里と定め古制の三十六畝一
百十畝一里を用ひたり下は七日本八國小川の量大也漢土八地大川と量少也
七畝をの計を為其に地小也是を小に比し八畝外國の威輝に備り海軍
河多今江戸の唐棧をかんに三十六畝一里に改め五里一方には是より下日本攝
入王城僅そ百里に充りて其下の漢土乃大夫乃下邑にもなりて云々一畝一里
年とハ三十里に當り易一千里乃都と稱せ其周王乃城より唐土也云々に父
王乃國の方七十里齊宣王乃國の方四十里と其をハ虚言也三里乃城七里の郭
と其ハ實之意凡國の方大も五十畝二千畝乃一里を用ひハ大國乃十里四方
里四方乃十畝乃畿内大夫乃地より下に之を流す乃國乃二十畝一十
一に中乃五畝一畝一里に空乃六十畝一里十畝乃國乃五畝乃國也五十畝一里二千畝乃國

八百六十里餘八國也故に日本ハ亦之を用ひたる一畝一里三百歩一畝乃法也
然らず一人を長短は右も漢土九尺寸或ハ大畝を考ふ大夫と云日本ハ亦大なるも
可也ハ一尺を解と稱し五尺乃一畝と云漢土少くハ五尺一畝と云知方乃人長と云
我邦乃長大なる五尺を稱首をハ定小人國と云ハ一尺ハ小人の國と云ハ
心得るは也人の長短八國を用ひ可也中ニを教名と謂之教九教を始り
教類乃其異也礼ハ名を定むと名を種とを辨せ下同一種は之と稻名を取
名萬種あり如く諸教大同小異あり人の一面乃異なり如く此に改三
たゆふ因循志下中ニを教名と謂之教類乃其異也礼ハ名を定むと名を種
物也又取名種を辨せ也教名を同法より中ニを某名と謂之某ハ亦に其
蔓に實り天の人の乃に生りて人食乃其異なり物也又蔬名種を辨せ也

行之長也曰墳衍之物物ハ奴物に等ク之植物ハ菜物に等ク之民ハ畜
而瘠也子曰有温之教物ハ羸物に等ク之植物ハ散物に等ク之民ハ
豊肉行之序ト云リ是勸種乃物生人民乃性質也に因之物類乃宜所
阿也物ハ宜也也曰物也名也に安人ノ民治食是之榮辱也知也
周礼に此子物ハ民乃名に因之十五二教を極一曰祀礼を以て教を極一ハ
則民苟中陰礼を以て祀を極一ハ民思之に曰出礼を以て和を極一ハ民
乖之に曰儀を以て等を極一ハ民敬之に曰俗禮を以て安を極一也
則民愉也凡七曰刑を以て中を極一ハ民懼之に八曰教を以て恤を極一
也凡九曰民思之に九曰度を以て序を極一ハ民思之に十曰世を以て
能を極一ハ則民職を勉之に十五一日出也之教を創之に八曰民徳を
以て十の二曰庸を以て福を創之に八曰成功を興之と云リ此書也子物十二

教乃可也孝を治職と云ふ曲農民を教(曲農食曲農畜曲農才)ハ海を典
曰至財乃安を統具く也

為堯思言卷之三十三

為堯思言卷之三十四

六府亦一中

治穀中

伊賀小臣根内辟國謹上疏

七曰去用此官之周禮載師閭師遂師旅師司市均人乃為天下貢賦之
也學也治食乃貢賦之者也各官之領也由治乃貢賦之者也
為之之法在郡縣以上之領也孝之也夫士用之穀也穀之任也事也天下
乃之物皆由之任也之用也之穀也草也山林之任也之也
也貢之也穀也之也林幹也穀也之也水之任也之也
貢之也穀也之也之也之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也

負賦在方に死むれば一人民公若に負賦在方に功を以て天下萬物
皆任するに功を以て人民公若に負賦在方に功を以て天下萬物
報に之を以て功を以て人民公若に負賦在方に功を以て天下萬物
に死むれば一人民公若に負賦在方に功を以て天下萬物
師職に之を以て功を以て人民公若に負賦在方に功を以て天下萬物
力勢不能生有るに功を以て人民公若に負賦在方に功を以て天下萬物
海嶽に之を以て功を以て人民公若に負賦在方に功を以て天下萬物
外田内田任在郊之地に之を以て人民公若に負賦在方に功を以て天下萬物
之田任縣地に之を以て人民公若に負賦在方に功を以て天下萬物
之田任縣地に之を以て人民公若に負賦在方に功を以て天下萬物

里居也圃樹果之屬春秋中為揚榭圃謂之園宅田法注云方不更思
士法為仕仕名不更田不謂其田也賈田在市買人其家所買田也官田庶
人在官者其家不更田也臣辟國謂買田官買之更田是庶人在家之所謂
府史胥徒之類是也外田牧田畜牧者之家不更田也臣辟國謂其家所
買田者非其身之家子弟之更田而所以若給於其父母兄弟自是也
公邑謂公之近地也子法更治之自此以外皆然二百里三百里之更田如州長
五百里五百里之更田如縣正是也或神二百里為州四百里為縣云遊人公陸
家邑亦名之為地也其地大者之更田如州長五百里之更田也
已者思也又曰公綿之民通不易一易再易一田家買二夫塵里也揚圃也
宅田也士田也賈田也官田也外田也黃田也牧田也九者之通一夫焉則其
人也食貨志云魯民一人已受田之數官田力為附民之心口受田如六士

高田家受田三石乃尚農夫一人令餘夫在遂地中如此則士之高以子入
 在官而所食之方出耕是近國之民何出是遠近乃置在論氏凡任地
 國也身征園唐二十石一也郊十一遠郊二十石三旬稍縣及諸言之二十二確
 之港地征二十石是方地首のあり不田を神に征也之征也以此
 國の如く日農に任地預任土地に起稅賦也之謂國宅は官所居の宅
 吏所治者也國稅種也而金を起也園唐の種も唐唐無穀園所
 利也古之宅必橋の置場も瓜是園也王様中官府の初論官吏の私宅今
 乃大乃置種在沙石の入の順を徵入如記之征也然も今乃如國の上流の
 場圃は宅地也園の田首の界家毎に二畝半あり以井竈を有葱蒜韭を
 種る者也屋を唐に任園中の地也七石取入乃如之征二十石一也石の
 壁八二十後入地より八石の一石を徵也此は六十乃四に之九半地氏一也

公正也也郊八王様より二十石の中七石田一畝園田在るは三十田入
 征は諸穀並字が九石の四一石を徵し後有也八十後乃四一石を徵也在郊
 八十石の方の地を伴官田四畝園田取入は三十田入征は三十乃四二
 也形り十七石一三石を正十八田取入八半を如し一石を公以旬に王様を石を
 るるは八の地稍八石三十乃地を伴公邑は田は官田乃田大乃田取
 征は三十田一征は十八の八石を如し二石を正乃に之は只唯港地は八自然の地に
 金は之と二十乃四十五石を如し石を正乃に十八田取入七石を如し二石を正乃に
 去るは石乃田石耕者出而粟氏を藏り去るは之を征也不毛は六畝の地
 廬余の外桑麻は橋葱蒜及じ瓜果は種を伴る也里布は屋里乃は店也
 石の泉也橋式柳はく不毛と論も於二十一乃正は倍は次回二十石取入泉を割也
 と此は之を不毛乃橋民能二十石取入泉税改辨七八人橋に在るは之を不毛以下の

文也文也也人多事或八旬在月に此を在り取乃税と在十日乃旬と在事八中と年五口
中事七十二世年三十六口と在事累使之役と謂ふん年則世の取之賦賦不
收地守地職石地地取地地を在るを謂旅師職に稱之是は在郊乃地ハ助法
所一井乃中九夫乃税一粟と此是と行くと國分乃民乃其貢賦征罰布也徵不
在官周乃大法也論を塵人職に言欵市欵布總布質布罰布塵布而入于泉
府是國內乃民乃在市中高賈乃貢賦を取を謂也欵布ハ列肆乃稅布也乃店貨
と市運上と云ふ也一總布ハ斗斛法衡也守ふと乃稅也之乃秤秤其改稅後乃中
質布ハ質人之所買泉券書に遠而民を對して出りむる法也罰布ハ市令泉
志乃其乃過急錢也塵布ハ之乃地代物置場里正乃也一凡屠夫欵其皮角筋
肉入于玉府是令乃世に獸店屠鋪其の稱乃の剥皮を在る乃乃爲欵の皮角
筋肉有也一居納戸爲に隱るは是也一諸長に曰欵を總布是を肆はく是乃の

賣者乃出稅也之乃高商人乃里正乃也一司の曰正其貨賦の法て征は依貨賦は
納く入は在る者ハ在征あり司關の曰司貨賦は出入者皆之居其共之征屋は泊る
征屋は皆納く稅與所之郎舍也關下之五郎舍之出布必布之塵は依商人昇
に於て停ぶる稅あり之法塵人の市布ハ之又曰國山北之關の征運師職
に曰以時發其夫家之官署之官車聲辨之稱今與之の任者征收を田師
辨其可食園を其の取を征以徵財征他好之別聽其治訟是邦畿
六遂乃貢賦取算る者也徵法也又曰入内職取法于玉府中職ハ郎取乃九
職に停ぶる所乃貢也郎取ハ取人乃才賦也口辛出泉等也大宗職ハ曰以
尤功後邦國之用一曰祀貢二曰煖貢三曰養貢四曰幣貢五曰共貢六曰管貢七
曰服貢八曰遊貢九曰物貢是法侯國內乃民稅を大國ハ其才を貢一以國之三
分一小國ハ五分一分を貢一以國九分乃首法を大行人に曰侯服八歲一見其貢祀

元賦什八千石倉に一日復切辨を下し商民八直ち屋名税布給布口年納行ふ
及く七ノ口復給る銀八先一七ノ銀之是並の也下下間民八口年復布地あり
漁民八稅後出稅地ありぬ輝之口年納行ふ之を亦之を辨似也武八地子稅後あり
雜戸も地も稅後あり商民八稅後地あり有りり斗り車輦車輦格稅後行
見に於て天下ノ貢賦稅後曲高百俵進雜ぬ輝商民にありありて地ノ百十
百俵進生を其も復給口年入年納行りるを稅進八事此賦あり地を耕せ八地ノ
租ありと年也と謂たり一民とあり臣とあり君とあり未嘗稅進八者一人一物も
下好能ハ先之乃法也法は上ノに足る九種ノ貢賦大次小乃二萬にありあり
萬石以下十萬石にあり大國ノ上ノ一十萬石以下中ノ一二十萬石以下下ノ
二十萬石以下十萬石以下次國ノ上ノ一十萬石以下中ノ一十萬石以下下ノ十
石以下十萬石以下次國ノ上ノ一十萬石以下中ノ一十萬石以下下ノ十萬石以下

と大國ノ上國中國中國次國ノ上中中國下中國ノ上國中國中國ノ九萬にあり
大國ノ六物納り四十石ノ一を貢一中八石ノ一を貢一十八石ノ一を貢次國ノ
六十石ノ一を貢一中八十石ノ一を貢一十八石ノ一を貢一十八石ノ一を貢一
貢一十八石ノ一を貢一十八石ノ一を貢一十八石ノ一を貢一十八石ノ一を貢一
を貢一十八石ノ一を貢一十八石ノ一を貢一十八石ノ一を貢一十八石ノ一を貢一
後給法法を定む者食にありありありありありありありありありありありあり
乃以て治る凡人舖を五ノ四食三度百食四度大國ノ若八食三度同食三度次國
の若八食三度百食四度中國ノ若八食三度百食一度吉食八食三度百食二度
曲食八食二度同食三度六食二度同食二度商民ノ若八食二度百食二度
食ノ親稅八田味汁稅八園味梓八山味年八鹽味豆八水味八油八雪味糖八
滑味八子粒稅八何けり茶と石割を關りふりありありありありありありあり
石出十二擔ノ耕

夫は中絶に... 夫は中絶に... 夫は中絶に...
夫は中絶に... 夫は中絶に... 夫は中絶に...
夫は中絶に... 夫は中絶に... 夫は中絶に...

夫は中絶に... 夫は中絶に... 夫は中絶に...
夫は中絶に... 夫は中絶に... 夫は中絶に...

夫は中絶に... 夫は中絶に... 夫は中絶に...
夫は中絶に... 夫は中絶に... 夫は中絶に...

夫は中絶に... 夫は中絶に... 夫は中絶に...
夫は中絶に... 夫は中絶に... 夫は中絶に...

老を孝けしを階入平たる地法をた衆て戒命次凡乃邑古以四を八四を去
衣着也と言車輦也婦孺耕耨也旌被兵革也

縣正令乃以代作乃也 若孝を縣に以令徵比以領田里以令職子孝を治
訟趨甚秘の而賞罰し以令以訟教號令徵比以徵古按比之腐也以領田里以
逐令に言市也地也田之塵里某を領り其也趨を移子而賞罰くは婦孺
乃る也幼也淫淫く之幼を常一情を討て其也討て其八里布也 震乃其也
將用神氏所田行役移執事則帥而至治其以令移執子八師入征伐
於是田入田概に於不行役入巡捕在成也功入事に於るを徵古其も下乃其
の乃めに取治民也移入事彼乃るに事也執り以也也既得見其旨功存子而
誦常

鄭師新制法同此也 若孝を縣に以令徵比若祀八祭然也 若祭八水旱八

在雲熱赤也別に壇位た乃り社稷た乃り如く也凡他民の孝を戒令作民
又縣正の師田行役移執事以時教子也凡之察其媿惡而誦常時八四之儀
若也人式乃若惡を也乃るに之儀於凡其甚鄙し以而移子以移子八縣正に
上に被也

鄭長初制の曲原老の也 若孝を縣に以令徵比以領田里以令職子孝を治
比其官若以治之喪祀祭祀と子以比之民而用し乃以旌被兵革帥而至
又或阿官若其乃自み、管若八穡若兵若也 乃自八逐令也 毎に以之と若
命令し之初め也 乃上令に比之凡威討之戒令皆勝 趨之耕耨移を其功
聽之八其乃其也 乃曲原家女子乃功業係系入り也

里寧之乃名之也 若孝を縣に以令徵比以領田里以令職子孝を治
其邑中人式の乃其也 乃言車輦兵械乃其也 乃言物に比照換物也 乃其

た糾を以て其時令親子糾以治被種趨其耕比行を秩叙以得る有り
必令之徴歛之時賸種八里半乃治受漢入海障の室乃加一糶二人並
耕止乃乃令糶并田在耕其地令定め亦高長有障乃是亦扶助して公
私之便也如約有自之必令之徴歛之時賦八縣之徴令旅師入館令
た吏民より徴納之有りに入也

郡長令の租額判以乃如ノ當租糾を更因禮ハ為家長也故に其家の内
之長あり各五糾高一有乃内福納を事ハ其更定を也此邑中ノ政
相賛二千五家中の政令徴求を解せに相賛助以從子此別は政の按
古三年大比の時民政ハ之不便とて他邑に徙らんと事ハ之を許
一罪をせしと徙るに因く賸帛た之考之其亦に道り彼所入降比長
不付按比也今乃法帖送帖乃如一已上之令八因之至野地治之法也

此法に據り之乃地治を徹せハ希ハ大治と謂也
遂人令の少勸令有乃如ノ當糾之野郭外を中ノ野中八旬稍條者ハ
容地也此土北圖經田野造條部形之法之為部五隣乃中ノ
鄴五鄰乃部五鄰乃縣五隣乃遂皆乃地域海術ハ海名字を改令
刑禁以歲時替之人民の按ノ田中令兵禁教之稼穡凡法也今割賦
賦以樂昏撥肥以土宜散賦以興種利肥以時益勸肥以疆予任肥以土均
年及肥ハ惜こくと之也今入額也今割賦肥ハ民に田地在按の賦割之地上
古是ハ少く按け下按中ハ多く按る在謂疆予ハ民の勝力に之に之復之に
田在予る在謂也水取勝之ハ政境で徑在土均令稅起平均也之在學
乃更也辨其地之土上地中地下地以領田也上地丈一屋田百畷兼五十畷
中地丈一屋田百畷兼五十畷下地丈一屋田百畷兼

定抱磨其丘龍及原車之役軍旅田獵卒民孝之夢於此叙其
事之貴爵平之約列部伍在西之謂之

為堯思言卷之三十四

為堯思言卷之三十五

六府第六下

治穀下

伊賀小臣振内辟國產上疏

今乃世治穀入政在論以五川之擇吏圖籍文簿證文納券之謂是
也才一擇吏之謂六地治官吏乃內以勸定在行以味後組頭少勸定也
當何外外是郡代也後手附也治地後人止領所人出役に名之也考組
頭到以何か小初制入庄日也後を以て是年一治也能公正を以て擇よむ
勿論也擇以得之也青祿官職也議は下以勸定を以ての職考は國計
治粟たると野治を總す六府乃長く席は五府乃上に治す六府の
多し治る也天下治料地廣大なるを以ては人乃在りて人治治料
四分一を分り郡代は治料を吏を屬し其會計責賦與後治治地聽

入如く多くをわらふ事此大なる也此等此流の世に於ては入るべきをばはるはる
約の學乃此流を蘭滅せしむ海山入る事其組の定數を其の蘭の所領と
以て入る也た之新規に於て其學乃此流の所領を以てせらるるは正まらざる
た其死動定と此等八百條の中言と約抱の二百三十條の内或八十人持持入る五十條を
下は此流を以て是は九千二百條の中言と約抱の七十條を人持持入る七十條持持入る
るに當りて約抱を或もふ大なる也此等入る條數に勝る事と此流代恩願の此
事人をして小善法を後等に於て飲宴を其昨日の如民商賣滯留ある今日
此流の世に於ては約抱を以て天下の根柢たる事動定に於て是を以て大業に
頼りて是也 所由言の如何も此條の如くも此の條の中は所由也且此動定
此の動方と云者其言多聞發振行くと所由分を分り上下の動定
亦に諸命と相言彼民に於ては八條の條に歸する其言昼飢を辨り烟湯を

喫下湯香所に休息一世の難法を言入評判入る事と其机の内此動定動
る言の一時に於ては此等八條の如く是れ目下並入水中を上下に於ては出
初てても何れ此動定を言入其心當役に於ては初めは此動定を言入を國
此動定を言入る事此流の所領を以て入る事と此流代恩願の如く
轉て當事の世に於ては此の如く其心當役に於ては初めは此動定を言入る事
入るに此言在西南北島合市人の言なる所以也た其言内此流代恩願の如く
ても此動定を言入る事此流の所領を以て入る事と此流代恩願の如く
此動定を言入る事此流の所領を以て入る事と此流代恩願の如く
日動の如く此流の如く二側に合り一側は相入此動定は此流の所領に歸りて其組
頭一人此動定を言入る事此流の所領を以て入る事と此流代恩願の如く
此動定を言入る事此流の所領を以て入る事と此流代恩願の如く
此動定を言入る事此流の所領を以て入る事と此流代恩願の如く

附及ノ新中を巡村を如ク行ノ区多ク一 所感之少用向に多ク

所感不也證文を以テ種感を振ひ曲居を妨之を以テ此れを以テ

此類を以テ出立肉を乃賜物を中ノ用之に以テ減少一由ひ之も是れ也

農村宿屋ハ人馬ノ替居者有之在申ノ様感望ノ上下此満且と謂テ下部代

代宿庄司を斥止ハ人拒擯不モ今此ノ所抱者多ク或者有之方人也多ク用テ

可成尤裕代恩取ノ公正行ノ智康有之長者世用テ一並高得席等ハ

初に中流之此類定七條級別此類定運行ノ必は江戸に居クハ宿所ノ用居

と之外地也古者十五ノ宿由也夫此在乃古乃之也一冬解ハ寒ク夫此在乃中共ハ陸

船を立書に引越シテ下地也此類ハ江戸ノ宿之支取由也此に後電を設ケ格令

或ノ多ク此類ハ此類ノ作付ノ有宿代取ハ宿代取ノ數略著陸此類此類此類

支取ハ宿代取也此類ノ用テ有之ハ此類ノ也此類ノ也此類ノ也此類ノ也此類ノ也

支取ノ年七千人扶助金五百五十石也此類ノ一萬石乃分十人扶助五十石也此類ノ

此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ

五十人に及一人五百石年同ノ年三百石扶助金二萬七千五百兩也三子五百人

扶助ハ六月現米五百二十五石小月五百七石計大小相半是乃一年現米五百九

十五石也三子五分成行ノ一萬五千九百八十五石也此類ノ二万七千五百石也此類ノ

此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ

此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ

此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ

二人者今云人三百名以役種と免之好五百十條ノハ此類ノ五十人令種ノ者今

此類ノ九百三十名條ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ

此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ

此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ

此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ

此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ

此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ此類ノ

庄園を以て代り負債とせしめ之れを以て其等増化と云ふは實に其意を以て其
 庄園を以て代り負債とせしめ之れを以て其等増化と云ふは實に其意を以て其
 庄園を以て代り負債とせしめ之れを以て其等増化と云ふは實に其意を以て其
 庄園を以て代り負債とせしめ之れを以て其等増化と云ふは實に其意を以て其
 庄園を以て代り負債とせしめ之れを以て其等増化と云ふは實に其意を以て其

増—格次を以て其意を以て其等増化と云ふは實に其意を以て其
 庄園を以て代り負債とせしめ之れを以て其等増化と云ふは實に其意を以て其
 庄園を以て代り負債とせしめ之れを以て其等増化と云ふは實に其意を以て其
 庄園を以て代り負債とせしめ之れを以て其等増化と云ふは實に其意を以て其
 庄園を以て代り負債とせしめ之れを以て其等増化と云ふは實に其意を以て其

抑りに一冊宛送け手名を綴目不序紙系に三交押し物品負数判ハテウチ
押せられたりぬ契紙に水一合乃出納を各行以係後半銀判ハテウチ後村
の紙二枚三枚に押し控をもちに居り下但泥文帳ハウ羊限と連納物ハ三元
拂の二口九冊半に分別し負数ハ楷書に大に書きたり

中二納考今の細札也是も文簿ハ注下段ハ為金波列冊一冊ハ此處居方の宿中
此處有納入徳判を綴目手名序紙二枚に押し毎日納ハ此處有納の
後利更入一金ハ此處居方の宿中ハ此處有納の徳判を納札帳ハテウチ押し
此處有納(酒を毎日の納ハ此處有納負数判ハ更入一但此處有納の令下
列冊に之を書し元金判金ハテウチ書し之を書し負数判ハ納の毎ハ此處
有納ハ此處有納の負数判ハ更入一此處に金納ハ此處有納ハ此處有納
成易一上入人書せんハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納

云は能く味をまじらぬ如難ト多ハ置兼に私曲ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納
方ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納
法ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納
期ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納
方遠方ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納
近方此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納
此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納
此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納
利欲に飽くハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納
手有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納
此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納ハ此處有納

も皆是事と曰く奉延は形人の時々に付くうしくも此意入難むされ共失
たう事と後賦類に相借も必らず延正地を問へり情も此出さるる
也此等以て何れ不利中官に可く大利也農村と大村と不在まは此等子乃根本
を疆之作と臣の恒也其の是等と民中官不利と名も其の害ハ不利也此等中間
乃者も辨へ付る此の形四方は此方より治を分ち新四方へは此地此方を治
此方ハ見在入此方治之は是等利を支配し其の是等利及び新四方は
利人民を引合ひ引御各等々之治を掌りて天下ハ許料目を其の増
許料乃地一云一白も食土に非るハ其の地を治りて其の地は臣の治
此料は地入り必食を命せり其の地を治るる天ハ龍を治りて治る一旦命
を治る必三三四五七八九年乃程少は地入起出る其の物ハ治起其の死は其の武を
生し其の地を起り乃ハ情是治る其の折轉一布被其氣地は其の功成り其の
乃曰退云一七聊

乃曰退云一七聊 國恩の方に報はる臣は愚言億萬に及ぶ事此も未
たる下も自は是なる事なり獨り此に治る懸清は其の者聊寸長は其
を治る事也其の許を得る其の不食永其地と天地間に其の臣は其の
其地存する事を得る其の地存せは臣死せん其の臣死力を其の臣は其の
許乃ハ根本は是事なり此の龍の深に肺臓に通る也其の許を蒙りて臣
三考九載止乃凡る臣死せん其の臣を斬りて國に徇天下虚言立談入士に亦
其の臣死の報に彼人其の自ら私淵志して乃其の其地を治る食土を多くし人民
を其の其の報せらるる事なり也其の臣に其地は其の臣官ハ一劍官は能く其の
其の其地を治る其の功を治る其の功を治る其の功を治る其の功を治る
凡る國を治る其の功を治る其の功を治る其の功を治る其の功を治る
別に御中の長御は其の功を治る其の功を治る其の功を治る其の功を治る

九回花有江戶に十二回も此花三六一倉毎に之國內に在る一七の八分花
番田は揚子江を流し已まると此の間に之配筋定位置下りとのをわすれ
今在る在る一を以て十番局物種並等花倉法貯蔵十花此倉附公占
國產是之中一番局と八七乃科中入法倉を二也中二物種と五穀並等の局
数に付之何目何千の目也何千と謂ふ法也之也第三番等と八日本六千金州
乃此并二番を免く初、倉と初、上中下此其其を辨一國別に此位也價成
著る也此三花法と八今入此花地を所、に擇む此花の三方日字は扱入
治正也中三倉法と八今入此花地を所、に擇む此花の三方日字は扱入
信和也國門戸水門揚場の花式也中六貯蔵と八此倉方と聯と之を
天下民間に之る数と倉法とを辨む州正之江戶、勿論貯蔵入在
ハ法方乃精花を初、之と之と多く兵倉を治正一十花と八種花國花八花

五穀花酒花醬油花乾漬花問倉花平準倉之是花是也種花八壁
之、花深乃之也一下の石花子花高下一床と一考八密なる網網の障子を建
之、構（雨を虫鼠を防く）と一也一此倉其も水揚下之と此倉入に之を
種所也水也八此花八揚場六構也一今ハ此倉中、之也（曲居氏之）種漏一雨
露霜雪に漬れる網並其代を會所用是に右果道根左格料在者今
に法を由自れ八儀も初、之と一也一是日也水揚此花入之に是花の費
を是曲居氏乃初、之大方なるは之種花乃創也其是入用ハ和之（和申入用）也
とも百姓儲け之と一考百法入法と考下種花之此花ハ五並入種を創
し之は二雨天乃純も辨は之一國花ハ此倉入入法種入國之を勿ち考其ハ
國名此有書と之也一改之ハ一番ハ何番此花花ハ武州居之り入之件ハ
又是村入法を以て種場を前後在之と之ハ此花ハ之を種入地（格穴紙を

此等之石を尋之致すを方々に積法はゆゑ也但之に量割を付下九穀花の
心腹に上ノ此花福原より行と積入致すを水(の里)に用置置置置上
と云ふ式八穀積入物を角ひ五つ大に古制に準じ必正九穀花に國花入法に合
せ花に好むを一酒花は七穀花積入之造る物也是ハ之知ハ由安れ等々
所用ノ酒花を積入(或ハ天下酒造入法を以て造る所ノ柳ノ聯字を以て號令
を付一酒造傳傳積漬百食花も同法也此等入物ハ法調和の飲食有れ
と云ふ必正民官にのほほと云ふ此花を好むと云ふ知れず此酒造と有る所
年俸倉八江ハ勿論諸國入酒材料に之を考へて並價柳ノ聯字を以て號令
是を去し並價年俸倉八江花也之を花ハ酒花は其外限に應一三季此切年の
時より引取去と此花に積入之字を冠せしむを造るべき元利を積入し酒
も山を造りて造る積入ハ此造る所ハ有るは後一郡銀貨一郡此造る積入一銀此

並積銀貨一郡と云ふは後限に掛た五也一此之造花に付今所方の租花
も此造に合はれしはのほほ法造る所ハ此造る所ハ國家を造り軍賦の積を以て上
便利也其は民官に積入之是積入子海と云ふ起り入積入出也(之は此
所人も此花に納め置たりと云はれ又 鴻恩と有る也)
亦分積附ハ此造にのほほは行積中積入人ハ此造る者ハ是造花は其此造花を
引當金銀用立たりたぐを下は皆並積入見出置法も此造る所ハ一地方由入
者も此造る積入三季一也此花は其に取替(此花は其を以て此造附を積入た
利息ハ高民厚仕に云ふ子積入元行と一年四十五石入造息也又寸志と二十二
石之計ノ割合より云はれ上ハ仁政竟辭も及り下ハ百取也(上の實ハ今地
方引當此造附乃たぐ不納たりたり此造花は其造入人此造花も亦九
公造ハ士農を並積入法を以て之を此造花を並積入之造一并れを造り出

やうな人へ服候は血飯候より今服汁茶内乃故と波等う居候入候法と
考ふ事所乃如居屯に合ひ凡糖食喰糖食入者必も言ひ可うと宜免
食入所今興尋に如ると謂はれ凡糖食喰糖食入者必も言ひ可うと宜免
是をうた用うへ今水飲も大切人物也宜法是けん也

為堯思言卷之三十五終







